

南国病院広報誌

第34号 2017年10月31日発行



つくし



日本医療機能評価機構認定病院
初回認定 2011年8月5日
3rdG: Ver.1.1 更新認定
主たる機能: 慢性期病院
副機能: 精神科病院

■発行元■

南国市大涌甲 1479-3
医療法人つくし会 南国病院
Tel (代) 088-864-3137
Fax 088-863-3070
<http://www.nankoku-hp.or.jp>

第59回 全日本病院学会 in 石川

石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、
ANAクラウンプラザホテル金沢、金沢市アートホール
H29.9.9・10(土・日)



「シンギュラリティ」について金沢で考えた

事務部 システム管理 中川 博文

2017年9月9日～10日に開催された「第59回全日本病院学会 in 石川」に参加しました。

「全日本病院学会」とは、当院を含め全国にある病院のうち約4分の1が加入する「全日本病院協会」（以下全日病）が年に1回、学術研修の場として開催している学会です。

開会式では、学会長である神野先生の地元能登の白米千枚田など、能登の風景のイメージ映像がスクリーンに映し出された後、舞台上で昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された七尾青柏祭のデカ山の町衆の木遣り歌、七尾まだらの演舞が行われ、演舞の終わりと共にステージ奥から客席側に向けられた、おそらく夜明けの朝日に見立てられたまばゆい照明の光の中から、学会長が登場するというIT企業の新製品発表会ばりの演出がなされ、のっけから引き込まれました。

本学会は、「大変革前夜に挑め！今こそ生きるをデザインせよ」をテーマとし、「大変革」とは、2018年4月に控えるトリプル計画と呼ばれる、地域医療構想を含む「第7次医療計画」、「第3期医療費適正化計画」、「第7期介護保険事業計画」の策定、トリプル改定と呼ばれる、「診療報酬」、「介護報酬」、「障害福祉サービス等報酬」の改定、また新専門医制度の開始、医師の働き方改革等々を表し、これらをテーマにした講義、議論が行われました。

私は主に、AI（人工知能、Artificial Intelligence）、IoT（モノのインターネット、Internet of Things）などIT技術の変革がこれからの医療へどのような恩恵をもたらすのかを主題にした講座を聴講しました。

AIは今や非常に身近な存在であり、みなさんがお持ちのスマートフォンにも音声アシスタントとして搭載されており、チェス、将棋、囲碁の名人もAIに敗北しています。

IoTで言えば、生活家電のネットワーク化が進んでおり、ロボット掃除機を外先から操作して来客前に掃除させたり、「スマートスピーカー」と呼ばれる無線通信技術を持つスピーカーとAIを組み合わせた製品がAmazon、Googleなど大手IT企業から発売されています。

医療の現場においても、老人のカー트에GPS等々を搭載し、GPSデータを元にしたりハビリ向け散歩コースの提案を行ったり、AIを用いてリハビリへの動機づけ分析をするなどの取り組みがなされているそうです。

コンピュータ技術や生命科学などの進歩によって、2045年頃に技術的な特異点が生じ、これまでの世界とは全く異なる世界がやってくると予想されています。医療においても、社会においても、これからの人間の果たす役割というのは、こういった物になるのかと考えさせられる機会となりました。

第48回 日本看護学会 -精神看護- 学術集会

島根県民会館 H29.9.29・30 (金・土)

主催：公益社団法人 日本看護協会、公益社団法人 島根県看護協会

「認知症とその他の精神疾患が混在した病棟における対応と課題」
—アンケートによる実態調査を通して—

5病棟看護師 小松 匡輔



第48回日本看護学会—精神看護—学術集会が、9月29・30日と島根県民会館で開催され、講演9題、研究発表50題、示説発表80題ありました。5病棟から新階主任、百田の3名で参加させて頂きました。今回、示説発表での参加ができることとなりました。まず示説とは何？から始まり、どのように準備したらいいのか分からず、模索しながら行いました。示説はポスターだけを見て、研究結果を伝えなければならず、データの配置や文字の大きさなど苦勞し何回も作り直しました。

示説発表の時間になると、様々な県の看護師の方々とのディスカッションをし、違った方面からの考え方を聞くことができ、学びを深めることができました。

他施設の示説は、自分がいつも臨床で「悩んでいること」や「困っていること」が発表されており興味深いものばかりでした。

この学会に参加してわかったことは、精神看護が常に新しい方向に向いていること、それについていかななくてはいけないということです。初めて聞くワードがあって調べたりすることがありました。医療や看護は常に変化しており、新しいことを頭に入れていかなければならないことを痛感しました。

今の精神看護業界が抱えている問題点を共有することができ、解決に向けてさまざまな視点を得ることができました。また、示説発表では直接発表者と話す機会もあり、その分野で活躍されている人の話は大変参考になりました。全国規模の学会に参加したのは初めてで、仕事に対するモチベーションが上がり、明日からの勤務はまだ違った視点で見ようと思いました。

一つ残念なことは、自分たちの発表があり、時間的な制限から聴講できなかった講演がたくさんあったことです。

次回、もし示説をするグループがあれば、ポスター作成の助言だけができるよう、他施設のポスターをしっかりと見てきておりますのでぜひ相談して下さい。



本研究に参加、協力して頂いたスタッフの皆さん、また発表の機会を与えて頂いたことに心から感謝いたします。

今回、前泊し島根観光をしてきました。出雲大社や国宝である松江城を観光し島根の人のやさしさに触れることができ、いいリフレッシュとなりました。ありがとうございました。